

心のまちづくり

“山林に保水力を！”

山林の保水力（落葉樹が少なく、ほとんどが杉や桧）がなく高槻の「出灰のような山奥の谷川」にも雨が集中して降れば、川の水位は堤防の上まで来ることに、驚きを感じました。

芥川の下流でも雨がふれば一機に増水して、翌日には又水が少ない川に戻ってしまいます。洪水と水不足を予防する為に山林に落葉樹をたくさん植林して、どんぐり等の動物のえさになる実のなる木も植えて、豊かな多様性のある山林にするために国民は真剣に取り組む必要があります。農業や漁業が栄えるためにも山林の整備が急務です。予算をつけて若者の就職



先として山林整備事業を遂行すべきです。

女瀬川や芥川、日野川、津之江水路等の川掃除を8年間してきて、常時、川を豊かな水で満たす為には、山林の保水力の大切さを痛感しています。
Y・J

会員だより

とんぼ玉

“世界にただ一つのペンダント”

古代から技法が伝えられている「とんぼ玉」というものに、なんとなく魅力を感じていました。「とんぼ玉」は古くはエジプトや吉野ケ里遺跡からも出土し、正倉院御物にもあるガラスビーズで江戸時代にも根付けなどに盛んに作られていたようです。

神戸に「とんぼ玉ミュージアム」があるのを見付け出かけました。神戸市中央区京町、ビルが立ち並んだ中の一つです。入場料四〇〇円、中には様々な「とんぼ玉」が展示されていました。現代作家のものはこれが「とんぼ玉」かと思うほ



ど繊細で美しい色鮮やかなものばかりです。古代のトルコ出土のものもありました。

展示品を見終わって外に出ると「とんぼ玉」の製作体験が出来ます。体験料金は一二〇〇円です。しばらく見学していると、中学生くらいの子供さんも作っています。私も挑戦することにしました。まず自分の好みの色を決めます。

主体となる「玉」と模様となる小さいガラス玉です。主体をブルー、模様は白と水色にしました。選んだガラス棒がバーナーの火でみるみる溶けて流れそうになるのを、直径3ミリくらいの棒にくるくる回しながら巻きつけて円く仕上げていきます。

ほぼ円形になってきたら模様となる小さいガラス玉をくっつけてまたバーナーで炙るときれいな水玉模様が出来上がります。スタッフの方がうまくリードしてくれて一〇分くらいで出来ました。冷えるまで一時間くらいかかるというので、昼食をして戻ってくると、きれいなブルーに水玉模様の「とんぼ玉」が出来上がっていました。付属品をつけて世界にただ一つのペンダントができました。
F・M

とけいそう

“平城宮跡を訪れて”

平城遷都一三〇〇年祭の開かれている奈良の平城宮跡を訪れました。大和の山々を背に1km四方の敷地に朱色も鮮やかな朱雀門、第一次大極殿、東院庭園などが、風になびく木々や草原の中に点在し、その地に立つと「あをによし奈良の都に咲く花の にはうがごとく今盛りなり」と詠んだ天平人の栄華が蘇ります。

和同三年（七一〇）から桓武天皇が長岡京に遷都する延暦三年（七八四）

までの七十四年間（途中の中断はありますが）政治、文化の中心として栄え、天平衣装の貴族、役人が、この地を往来したかと思うと一三〇〇年の時を越えて、奈良時代や万葉の時代に思いを馳せて何かワクワクしてしまいます。



朱雀門の真北八〇〇mにそびえる復元された第一次大極殿は、平城宮最大の建物で、天皇の即位式や外国使節の謁見等、国の重要な儀式に使われていて、天皇の玉座も復元されていました。

この場所から天皇が南庭に整列した家臣に謁見したのかと思いつながら、南庭とはるか向こうの朱雀門を見降ろすと、少し偉くなった気分にならず、唐の都、長安を模倣し

たと言われるこの都では、律令制が整うにつれて、国の富は中央に集められ、皇族、貴族は華やかな生活を送り、遣唐使などからもたらされた唐の中国風、仏教風の文化を積極的に受け入れ、天平文化の華を咲かせたそうです。

それを象徴するかの様に東隅に再現された東院庭園。東西八〇m南北一〇〇mの敷地の中に池と建物があり、ここで貴族達が曲水の宴を催し、舞楽が披露されていたのです。

華やかさの陰では藤原氏による権力闘争が繰り広げられていた筈ですが、その中で抹殺された人達が、生い茂る草場や、遺跡の礎に影を落としていた様な気がする平城宮跡でした。
K・T



T・N